

(様式1)		学力向上のための重点プラン【小学校】			新宿区立牛込仲之小学校	
■ 学校の共通目標						
授業づくり	重点	○視覚化、焦点化、個別の支援の工夫 ○主体的・対話的で深い学びへの取り組み	中間評価	○視覚化、焦点化、個別の支援の3つのキーワードで示したことは、実践につながりやすかった。 ○主体的・対話的で深い学びへの試みは、言語活動の向上にしばった取組が多かったので、特別活動の研究を生かしたい。	最終評価	○ユニバーサルデザインの授業について、視覚化、焦点化、個別の支援のみならず、情報共有ができるとさらによかった。 ○主体的・対話的で深い学びは、各教科等の研究が進んでいるので、活用したい。
環境づくり		○授業に関連のあるもののみの提示とICTの活用		○ICTの活用については、実物投影がメインのため、研修等でさらなる効果的な活用の試みにつなげたい。		○ICTを深く活用し始めている教員が増えてきているので、さらに共有できるような研修につなげたい。

■ 学年の取組み内容

学年	教科	学習状況の分析（10月）	課 題（10月）	改善のための取組み（10月）	最終評価（2月）	
1	国語	学 「話すこと・聞くこと」は、全員が。自分の思いを発表することができる。音読は、元気よく読むことができる児童が多い。友達の話、先生の話最後まで静かに聞くことは、難しいことがあり、定着していない。 学 「書くこと」は、ひらがなは、だいたい50文字を覚えている。拗音や発音は、不十分である。かたかなについては、50音が、まだ定着していない。 学 教科書や黒板を文字、文章を丁寧に視写することができる。自分が考えたことを簡単な文に書くことがだいたいできる。	学 発表したり、グループで話したりする時に声の大きさに気を付けて話す。 学 最後まで友達の話静かに聞く姿勢を身につける。 学 ○「書くこと」「漢字・言語」では、ひらがなとかたかなの50音を覚え、書くことができるようにする。	学 話す時の音量を0～4までで示し、分かりやすいように提示する。 学 話を聞く時には、目、耳、心で話を聞くこと、手は膝に置くことを徹底する。 学 かたかなやひらがな、漢字の定着をめざし、定期的に視写やテストを行う。 学 週に1回、日記を宿題にして、家庭学習に取り組ませる。	学 国語における「話す」活動については、話す音量や話し方について繰り返し指導をしてきた。9割程度の児童は、話すことについては、概ね意識をして話せるようになっている。数名、声が出ない、恥ずかしがる等の様子が見られるので個別に対応していく。「聞く」については、教室、学年で集まるとき、広い場所、集会など場面によって難しい状況がある。どの場面でも聞き方が上手になるように指導が継続して必要である。また、個別に聞く姿勢や意識をもてるよう個別に声掛けが必要である。 学 ひらがなは、ほぼ書けるようになっているが、カタカナの定着には至っていない。漢字の練習は、毎日行うようにしているが、個人差があり、個別に指導が必要である。 学 書く力については、個人差が大きいが、書くための観点をはっきりさせ、見本となる文章を示し繰り返し練習する必要がある。	
	算数	学 1～10の数字の読み方、書き方、概念は、理解している。 学 足して答えが10までの計算は、ほぼ全員が理解し、計算できる。数量感覚が難しい場合がある。繰り上がりのたし算は、まだ、不十分である。	学 ○10までの合成分解をしっかりと理解し、できるようにする。 学 ○計算の方法を絵や図、式や言葉で説明できるようにする。	学 ○自分の考えをノートに書いたり、発表したりする場面を作る。 学 ○数量感覚を身につけるために、身の回りの物などを使い、実際に感じる場面を作る。 学 ○プリント、ドリル、宿題等で繰り返しの練習を行う。	学 ○自分の考えをノートに書くことは、習慣になってきており、図や式を書いて、発表することができてきた。 学 ○プリントは、教科書の問題に合わせて作成するなど工夫をして繰り返しの練習を行うことができた。 学 ○時計の読み方は、定着していない。 学 ○繰り下がり、繰り上がりの計算については、10の合成分解が難しい児童が数名おり、具体物や半具体物がないと解けない。保護者と連絡を取り合い、繰り返しの練習を行っていく必要がある。	
学年	教科	学習状況の分析（4月）	課 題（4月）	改善のための取組み（4月）	中間評価・追加する取組み（10月）	最終評価（2月）
2	国語	学 「話すこと・聞くこと」は、全員が自分の思いを発表することができる。音読は、大きな声ではっきりと読むことができる。友達の発表を最後まで聞くことについてはまだ十分に定着していない。 学 「書くこと」では、自分の思いを簡単な文で書くことができる。しかし、撥音便や促音便を正しく使えていない、誤字脱字が多く、片仮名の定着も、全体的にまだ不十分である。 学 ひらがなは、すべての児童が習得している。1年生の既習漢字は児童の多くが身に付けている。	学 ○「話すこと・聞くこと」では、人の話を最後まで静かに聞く姿勢を身に付けること。 学 ○「書くこと」では、自力で正しい文を書くこと。 学 ○「漢字・言語」では、正しく丁寧に文字を書くこと、2年生の漢字を積み残しなく覚え、正しい筆順で書くこと。	学 ○話し手の目を見て話を聞かせることを徹底する。他の教科等においても意識させる。 学 ○文を書いたら、必ず読み直しをする習慣を身に付けさせる。 学 ○週1回、日記を宿題に家庭学習で取り組ませる。 学 ○可能な限り、漢字テストを行い、繰り返し書かせる。	学 ○目を見て聞くことを繰り返し指導しているが、教員からの言葉掛けがないとできない児童も多い。自分からできるようになるまで、繰り返し指導していく。 学 ○家庭学習での日記だけではなく、行事ごとの作文指導により詳しく書くことや、読み手が楽しめる内容を書くことができるようになってきた。これからは、グループで見せ合う活動なども取り入れていきたい。 学 ○漢字の定着のためにも、ミニテストを行う。	学 ○学力調査の結果、国語は「大変良好」。文章を書く力の平均値だったので、来年度も「書く」についての指導をしていく。 学 ○聞くから聴くは指導を変更し、目を見て話を聞くだけでなく、相手がどんなことを言おうとしているのか考えながら聴くことを指導していく。この点においても重点的に指導していく。 学 ○行事ごとの作文指導と、グループで見せ合う活動を行ったことで、作文をより詳しく書くための方法を共有することができた。これからも、交流の時間を大切にしていきたい。 学 ○2年の漢字も定着できている。ミニテストも効果的であると思う。
	算数	学 1年までの学習は概ね理解している。 学 二桁＋二桁のたし算(ひっ算)はほぼ全員が理解し、計算できる。	学 ○ひっ算では、定規を使い、位取りに気を付けて計算すること。 学 ○考え方を図や言葉で適切に表現できること。	学 ○自分の考えを言葉で発表できる場を積極的に設ける。 学 ○友達のことを説明させ、表現する練習を意図的に取り入れる。	学 ○自分の考えを積極的に発表したい児童が増えた。これからも、発表や交流の時間を設けていく。 学 ○加法・減法の筆算は定着している。九九も定着が図れるよう指導していく。	学 ○学力調査の結果、算数は「ほぼ良好」。 学 ○積極的に発表する児童はますます増えている。これからも、児童の発表したいと思える授業を行う。 学 ○九九は繰り返し指導したので、定着している。
3	国語	調 どの領域も平均を上回っているが、登場人物の心情を想像しながら読むことが若干苦手である。 学 漢字を正しく書くことに苦手意識を感じる子がやや多い。	学 ○人物の心情を想像しながら物語文を読む。 学 ○漢字を正しく書き、正しい送り仮名をつける。	学 ○自分の読み取りの時間を確保する。発表場面では相互交流をする機会を設け、さらにノートなどに記述する。 学 ○家庭学習や小テストを実施し、新出漢字の習熟を図る。	学 ○2学以降は手立てとしてワークシート等も用いて、読み取ったことをペアやトリオなどで話してから、全体交流を行う。 学 ○ICTを用いて、場面絵を写し、読み取りを深めるための手段とする。	学 ○ワークシートを用いたことにより、児童意識的に主人公の心情を想像しながら読めるようになった。 学 ○ドリルの書き取りを繰り返すことで漢字学習が定着した。 学 ○漢字ペンギングループでの部首集めゲームなど、楽しく漢字覚えられ手立てを工夫し、ミニテストで百点を取る児童が8割を超えた。

		調 学 どの領域も平均を上回っているが、数量関係領域が若干苦手である。 自分の考えを表現することに意欲があるが、表現方法がやや乏しい。	○演算決定の場面を確実にとらえる。 ○計算力を向上させる。 ○多様な方法で考えを表現し、説明できる力を身に付ける。	○線分図などを用いて、場面把握ができるように指導する。 ○計算力をつけるため、家庭学習やミニテストで反復練習を行う。 ○友達のを考えを読み取ったり、自分の考えに取り入れたりできるよう、集団検討場面を充実させる。	○児童の興味が持続し、主体的に学べるようにＩＣＴなどを用いて導入場面の工夫を行う。 ○数量関係領域では基準をはっきりさせた後、図に表し、２つの量の関係を的確にとらえ、演算決定ができるように指導する。また図に書いたことをペアやトリオなどで説明し合い、思考を深める。 ○引き続き東京ベーシック・ドリルを用いて、基礎学力の充実を図る。	○課題取り組の際、線分図を必ず描かせ、基となるものをはっきりさせたことで、演算方針が自信をもってできるようになった児童が多い。 ○毎日必ず計算問題を宿題に出したり、ドリルの習熟を徹底したりすることで、単元ごとのテストの計算始点8割以上の児童が満点を取れるようになった。
4	国語	調 学 「読むこと」については、正答率が全国平均より11ポイント以上高い。 読書が好きな児童が多い。物語文などの読解力が高い。	○「話すこと・聞くこと」では、話の中心や場面を意識し、抑揚や強弱、間の取り方を工夫する。 ○「書くこと」では、書く内容を明確にし、まとまりを考えて文章の構成を考える。	○様々な音読の仕方を経験させる。 ○国語科以外でも、意図的に「話す」場面を意図的に設ける。 ○「よい話し方・聞き方」を全体で共有しながら意識させる。 ○「成長ノート」等を通し、整理しながら書く習慣を身に付けさせる。	○多くの児童が、人前で音読することを好んでいるので初見で音読することにも慣れてきている。 ○朝の会では、スピーチをする時間を設け、話したいことを分かりやすく話す経験することを通し、少しずつ度胸がついてきている。 ○1週間に1回以上、自分の考えを言葉で整理し書きとめるという習慣がついてきている。	○「話すこと・聞くこと」では、まず音読する機会を平等に与え、人前で声を出す経験を意図的に設けた。声の大きさに課題のある児童（特に女子）は、まだいる。 ○「書くこと」については、4月当初に比べ短時間である程度の量の文章を書くことができるようになった。誤字脱字の見落とし、言い回しの誤りなどは若干見られる。
	算数	調 学 「数と計算」の正答率が、区・全国の平均を共に下回っていた。観点別では、数量や図形についての知識・理解が他に比べて低い。 理解が遅い児童の割合が高い。	○数のまとまりに着目し、大きな数の大きさの比べ方や表し方を統合的に捉える。 ○1時間の学習内容をしっかり理解し、わからない内容は積極的に質問する。	○東京ベーシック・ドリルを活用し基礎・基本の定着を図る。 ○家庭学習で、既習内容の反復練習を行う。 ○授業前に意図的に、5分間「数と計算タイム」設け、既習内容を定着させる。 ○毎時間のねらいを明確に知らせる。	○東京ベーシック・ドリルを丁寧に行うことで、診断テストの得点が上がっている。 ○授業前に行うことで頭の準備運動になり、スムーズに学習がスタートできている。 ○毎時間めあてをノートに書かせることで、学習のゴールを意識する児童が増えてきている。	○授業始めの計算タイムは非常に有効であった。繰り返し計算ドリルを活用し、既習の計算を5分間という短時間で行うことで、忘れずに基礎・基本の定着を図ることができた。 ○毎時間のねらいを明確にすることで、授業後の達成度が自己評価できていて良かった。 ○ノートの書き方指導が必要であることが課題である。
5	国語	調 学 学力調査の結果、全国平均・区の平均を大きく上回っていた。 基礎・基本の力、文章の読解力ではできていたが、作文や聞いたことを文に表現する等の書く力に劣る。	○基礎・基本の力を維持する。 ○「話す・聞く」では、話す内容を組立、分かりやすい言葉で話す。 ○話す事柄や聞いたことを、自分の言葉でまとめる。	○定着をはかるために、学習した内容を宿題として出す。 ○自分の感想や考えをグループや全体の前で発表する時間をとる。 ○説明文では、要旨をまとめ小見出しを付けたり、感じたことを自分の言葉でまとめたりする。	○漢字は、文章の中で適切に使えるようになってきた。 ○自分の考えを分かりやすく説明しようとする意欲は感じられるが、語彙や内容に差が出てきた。	○ほとんどの児童は、文の組み立てができ、自分の伝えたいことや考えを文章で表現することができてきた。しかし、児童間で差が著しくなってきた。 ○自分の言葉で自分の伝えたいことを発表できるようになってきた。
	算数	調 学 学力調査の結果、全国平均・区の平均を上回っていた。 計算力や基礎・基本の力についてはいるが、応用問題など思考を要する問題や角度に関する問題は、やや劣っていた。	○基礎・基本の力の定着 ○基礎・基本の力を応用した問題を取り入れる。	○宿題を通して、学習した内容を、毎日反復練習させる。 ○考え方をまとめる時間を確保し、発表させる。また、自分の考えと友達のを考え方を比較することができるようにする。	○計算力は、全体的についている。 ○思考を要する問題では、題意を読み取る能力や読解力に大きな差が出てきた。	○思考を要する問題に興味をもって取り組み、考え方を説明することができてきた。 ○毎日の宿題で東京ベーシック・ドリルによって計算力が向上した。しかし、数値が大きく増え、個別指導が必要である。
6	国語	調 調 学 読み手をひきつけるような文章表現が不十分である。 修飾語・敬語などの語彙の活用が不十分である。 自分の考えをもつことはできるが、考えを広げたり深めたりすることはやや不十分である。	○自分の考えはもっているが、その考えを表現することが苦手な児童が多い。 ○自分の考えをもてるが、他者の考えと比べた後、さらに考えを深めることが苦手である。	○授業で国語辞典を活用することによって、分からない語彙や使い方などを調べる習慣を付ける。 ○目的や意図に応じて、簡単に書いたり詳しく書いたりする習慣をつける。 ○話し手の意図を捉えながら聞き、自分の意見と比べて考えをまとめる力をつける。	○分からない語彙や使い方などを、国語辞典を使って調べる習慣が付いてきている。 ○文章を書く時に組み立てを意識してまとめる力が付いてきている。 ○自分の考えを相手に伝えるために書く・話すなどの手段によって考えを構成する力を付けていく。	○登場人物の相互関係を捉える学習を繰り返したことで、中心人物を取り巻く複数の人物関係を読み取る力が付いた。 ○「書くこと」については、素材選択や思いの記述には個人差があるが、自分の考えや気持ちを掘り起し書く事柄を整理する力が付いた。
	算数	調 学 学 数と計算分野・単位量当たりの計算の習熟が不十分である。 自分の考えを表現する力がやや不十分である。 図形領域の作図がやや不十分である。	○既習事項を生かした発展問題に取り組む際、抵抗がある。 ○自分の言葉で、分かりやすく説明することに苦手意識をもつ児童がいる。	○東京ベーシック・ドリル、家庭学習などで基礎・基本の定着を図る。 ○思考力・表現力を高めるために自分の考えを伝える場を設定し、伝えることでさらに思考を深めていく。 ○一人一人に即して、よさや課題を取り出し適切に返していく。	○授業時間の中で、復習タイムを設定し、基礎・基本の定着を図っている。自ら学ぶ力も徐々に付いてきている。 ○自分の考えを伝える場を設定することで、一人ひとりが十分に考えられるようになり、表現したことで思考の深まりが見られるようになってきた。 ○基礎的内容を十分に達成できている児童には、発展学習を行うことで、より一人ひとりに即した力を付けていく。	○習熟度別学習指導により、難しい課題に対して多様な解決方法を見つけるグループであったり、易しい課題に対し自立解決をするグループであったりと理解や習熟に合わせた学習を進めることにより、思考の深まりが見られた。 ○授業の中で復習タイムを設定したことで、基礎的・基本的な内容の確実な定着を図ることができた。
音楽	学	意識をして「聴くこと」については、少しずつできるようになっているが、感じたことを工夫して表現することが難しい児童もいる。	○「聴く」ことの大切さを学び、意識をして聴き、表現することができるようにする。	○範唱や範奏を聴き、リズムや旋律を演奏するだけでなく、楽曲のよさや演奏の優れているところを感じ取り、表現に生かすことができるようにする。	○楽曲を聴いて感じ取り、自分の演奏に生かそうとしている児童が多く見られる。	○聴くことについては、少しずつできるようになってきた。合奏や合唱を通して聴いて合せることの楽しさが芽かってきた。音楽では自分自身が感じたことを表現で生かしていくことが大切であるので、思いをもって表現することをさらに目指していきたい。
	学	音楽の基礎的な力が身につけている児童は多いが、まだ不足している児童もいる。		○歌詞を大切にし、表現に生かすようにする。	○歌詞を大切にすること、思いをもって歌うことを毎時間繰り返して行うことにより、時には歌声に表現が生かせるようになってきた。今後継続して行っていく。	○鑑賞の活動でもポイントを絞って聴くことにより、想像したり聴いて考えたりできるようになってきた児童もいるが、まだできない児童もいるので継続して指導していく必要がある。
図工	学	感じたことや想像したことを絵や立体工作に表わすことを楽しんでいるが、自分の考えを上手く表現できない児童もみられる。	○子どもたちの作品づくりへの考えを意欲的に表現できるようにする。	○子どもたちひとりひとりの制作への取り組み方を観て、指導をする。	○題材にあう材料など自らみつけて制作できるように指導をしていく。	○いろいろな描画材料を使用したりして自分の気持ちを表現する工夫ができた。また、工作でもいろいろな材料を使い、楽しく表現できた。

